

戦国時代武家伝奏を勤めた広橋守光の日記、初の全文翻刻！

【史料纂集古記録編 第198回配本】

も り み つ こ う き

守光公記 第1〔全2冊〕

中世公家日記研究会校訂

(鶴崎裕雄・湯川敏治・森田恭二・柴田真一)

8月刊行予定 永正4年(1507)12月～同10年(1513)12月

●A5判・上製・346頁・定価(本体14,000円+税) ISBN978-4-8406-5198-1

『守光公記』は、戦国時代に長期にわたって武家伝奏を勤めた公卿広橋守光(1471-1526)の日記である。永正4年(1507)から同18年(1521、9月に大永元年と改元)までの日次記と別記が残っている。自筆原本は、広橋家の他の史料とともに同家に伝来していたが、近代になり東洋文庫に移譲され現在は国立歴史民俗博物館の所蔵となっている。一部は宮内庁書陵部が所蔵している。

このたび、国立歴史民俗博物館ならびに宮内庁書陵部所蔵の自筆原本を底本として初の全文翻刻として刊行する。本日記から武家伝奏として、公武間の折衝に心を砕く守光の実像がみえてくる。また、幕府との交渉記録や関連文書が写として掲載されており、女房奉書が数多く筆写されている。他の公家日記と比較すると、有職故実や年中行事に関連する記事は少ない。この時期の政治史の一級史料であることは勿論だが、武家方の記録のない事柄について貴重な知見を提供してくれる。

ひろはし 広橋守光とは

文明3年(1471)生、権大納言町広光の子。同11年に叙爵して、同じ日野流藤原氏の広橋兼顕の後を嗣いだ。弁官、蔵人頭、参議、権中納言を経て権大納言となった。永正6年(1509)に武家伝奏となった。大永6年(1526)4月1日准大臣の宣下を受け、56歳で薨じた。天文7年(1538)内大臣の追贈を受けている。